



慢性腎臓病(CKD)において腎臓病療法食とリン吸着剤により 血中FGF23濃度と血中IP濃度の低下が認められた症例

症例プロフィール

基本/疾患情報

雑種犬、7歳齢、未去勢雄。

来院目的

脱毛の治療を目的として初診来院。

血液検査

高リン血症(IP=6.7mg/dL)が認められた。

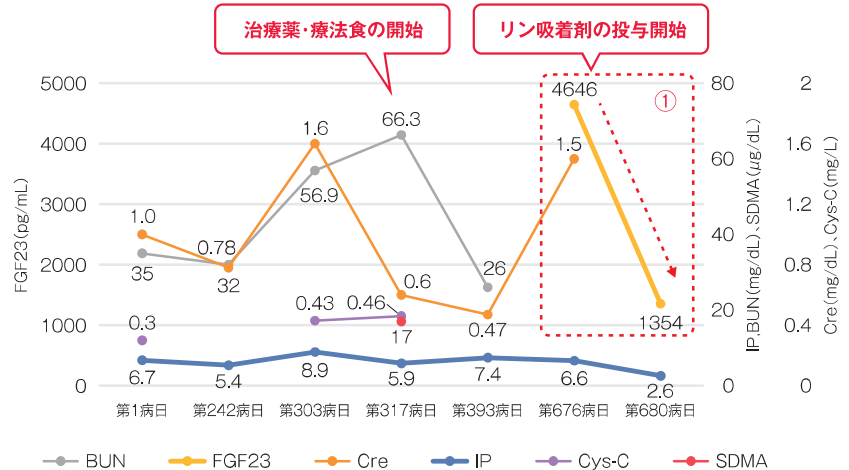
(図1参照)

診断

血液検査より、第303病日にステージ2と

診断。

(図1) FGF23と腎関連項目 血中濃度の推移



治療内容・経過

第1病日

皮膚治療を目的として初診来院。血液検査にてIPが高値であった。腎機能マーカーやその他の血液検査所見に異常がなく症状もないため経過観察とした。

第303病日

経過観察中に血中IP濃度、血中Cre濃度の上昇を認めたため、腎機能マーカーを精査し慢性腎臓病(ステージ2)と診断した。

第317~第393病日

第317病日にBUNと血中IP濃度が上昇し、SDMAが参考基準範囲を超えていたため、同日より慢性腎臓病治療

薬(テルミサルタン)と腎臓病療法食、抗酸化サプリメントの使用を開始した。治療の結果、第393病日にBUNが低下した。

第676病日

食欲低下を呈し来院。血中IP濃度は前回より改善していたが、血中FGF23濃度の高値を確認したため、リン吸着剤(水酸化アルミニウム)の投与を開始した。

第680病日

食欲が改善し、血中IP濃度と血中FGF23濃度の低下が認められた。(図①)

その後、良好に維持している。

考察

- 第676病日では血中IP濃度は改善していたが、血中FGF23濃度が高値であったためリン吸着剤を追加した。FGF23を測定する事で、より積極的な治療へ踏み込む判断ができた。
- 継続的に高リン血症を呈する症例では、モニタリングにFGF23の測定をとり入れる事で、正確にリン・カルシウム代謝異常を把握する事ができ、適切なタイミングで食事療法やリン吸着剤投与を開始できる可能性がある。
- FGF23の測定はCKDの治療選択に役立つことが期待できる。